

「M情報デスク」サポート団体
 救う会大阪 NO!民主桜組
 米国に原爆投下謝罪を求める会
 大阪の公教育を考える会
 スパイ防止法の制定を求める会
 外国人参政権に反対する会・関西
 日教組の憲法行為を自及する市民の会
 竹島を奪還する会・関西
 靖国神社に眠る御霊に感謝する会

MASUKI INFO, DESK FIGHTING REPORT



No. 131
 【発行・編集】
 MASUKI情報デスク
 増木直美
 大阪府豊中市上新田2-6-25-113
 TEL 090-3621-1509
 FAX 06-6835-0974
<http://mid.parfe.jp/>
 mid@jewel.ocn.ne.jp

大阪府立阿倍野高校体育祭国旗翻る!



体育祭当日、たしかに上がっている。撮影隊長 赤田正和

最近、やいのやいの言って、入学式や卒業式ではどうにか国旗は上がり始めましたが、体育祭で国旗を見るのは何年ぶりでしょう。ひょっとすると30年か40年ぶりかもしれません。

5月31日、大阪府立阿倍野高校南口龍一先生より、次のようなメールが入った。

本日、学校長の英断で、センターポールに国旗掲揚が決まりました! みなさま、ご支援、誠にありがとうございます。

そしてその前日――
 南口です。6月1日(金)に阿倍野高校の体

育大会があります。この日、本校グラウンドのメインポールに日の丸掲揚が実現しようです。生徒、教職員、保護者、来賓の方々千数百名の眼前に8時40分から4時までの長時間、グラウンド正面のメインポールに日の丸がある。「伝統と文化を尊重し、我が国と郷土に対して理解と愛情を育てる・・・」あの新教育基本法の精神がやっと実際に体现されそうです。笹山幸子新校長は絶対に英断を下さなければなりません。私は、これまで体育大会の直近の職員会議で、グラウンドのメインポールに国旗を掲揚してほしい。そしてこの体育大会の国旗掲揚をきっかけに翌日から学校の中庭に毎日国旗を掲揚してほしいと毎年要望してきました。それが今年は何とか実現しそうです。笹山幸子新校長は一度は掲揚をしない旨を宣言しましたが、私の猛烈な抗議にたじろいでいます。去年6月のいわゆる大阪の「国旗国歌条例」、そして今年2月の「教育基本条例」この画期的な2本の条例をもってすれば「卒業式、入学式等の式典において・・・国旗を掲揚し国歌を斉唱するものとする。」をもって掲揚できると強く思っています。しかし、笹山新校長は学校玄関横のポールに掲揚しているのだからと首を縦に振りません。私の猛烈な誓願にあと一步のところでできています。がんばります。

――と、メールが入りました。――
 それで、「よ～～し、あす夜が明けたら電話攻撃をするゾ～～。」と思っただら、もう戦いは終わってしまいました。そもそも、運動会には、国旗・万国旗ときまっているもの。上げろげろ上げないで、議論したりするものではないと思います。



第四回 教育基本条例 早期成立を求める集会
 5月25日、我々の悲願であった(大阪市)教育基本条例が成立した。我々が支援しようがしまいがこの条例は成立したと思う。しかし私たちは支援した。子供たちにまた1つ自慢が増えた。支援のきっかけは高橋史朗先生が「君たち何やってんだ。私が大坂に向く」という朝一の電話だ。運動のきっかけを作ってくださった髭の教授にただただ感謝。
 左・5月19日 サムティフエ イム新大阪 第3回 教育基本条例早期成立を求める緊急集会

左より、野田数東京都議、中曾千鶴子小学校講師、今井篤市議、吉村洋文市議、横山英幸府議

橋下市長に学ぶ議会制民主主義

M情報 増木重夫

ワルガキに、「言えばわかる」の性善説は通用しない

面白い記事を見た。屋山太郎氏が朝雲新聞(5月31日付 春夏秋冬)に寄せたコラムだ。一部抜粋させていただく。

何十年も前から教育問題に関心を持ってきた。安倍晋三内閣が六十年ぶりに教育基本法の改正をやり、教育指導要領の改正を断行したときはこれで『ご本尊』ができたと言んだものだ。ご本尊を大切に十年も経てば教育現場は良くなってくると期待した。ところが大阪の橋下市長が府知事時代以来やっていることは、ご本尊を崇めるよりも悪質教員をピンピン取り締まって、明日から学校を良くしようという取り組みである。

橋下氏は府知事になって早々、日の丸・国歌、起立斉唱条例を作り、次に教育基本条例を制定した。これは同じ命令に三回違反すれば免職になるという厳しい条例だ。自民党は国旗・国歌法を作った教育現場に『社会常識』を行き渡らせようとしたのだが、橋下式では、言うことをきかなければクビという厳しさだ。安倍さんはご本尊を作ったが、無視したり違反する人はあとを絶たない。橋下式はいわば「ロンブスの卵だ。」「こつこつ手もあったのか」とひとしきり感心したものである。私の性分では橋下式の方がピンとくる。理念の宣布よりも、実力行使がわかりやすい。

私(増木)の性分も、屋山氏と全く同じで、橋下式を支持。理念や思想の宣布、さらに言えば、国家観の開陳よりも、実力行使だ。

元々私は、自民党支持。もちろん「断腸の妥協」で。そして、もう一度安倍政権をと考えていた。ところが、心が安倍元総理から、橋下市長に移りました。止めは後述しますが大阪の自民党の組合擁護。もちろん感情的な、情緒的な話ではなく、どちらの政治手法が日本再生に向くかという問題です。

橋下市長になって、やたらと裁判が増えた。それを批判する人も多い。橋下市長が組合に市庁舎から『出てけ!』と言って裁判。刺青調査をやって監査請求。多分裁判になるだろう。そもそも役人が刺青なんて論外の論外。茶髪やピアスもやめろ。と言いたい。

議会制民主主義において、その正当性の担保は選挙が正しく行われること。今までの市長は組み合いから選挙のたびに大量の票と手足をもらっていた。だから言いたいことも言えるはずがない。橋下市長は組合から何ももらっていない。だから言いたい放題が言える。言いたい放題は彼の性格ではなく、「弱みがない」と言うことなのだ。ここに注目しなければならぬ。

安倍さんは性善説。これは同じ価値観をもった相手に接するときの話。同じ価値観を共有できる人には言えばわかる。だから、語ればいいのだ。ところが、塾経営40年の経験からワ

ルガキ相手の時はこれは通用しない。性悪説でやらないと。これが安倍さんの教育政策の失敗の原因。

話は脱線するが、私の塾で、一番難しいのは講師の養成。講師をしようと思うくらいだからそこそこのしつけもされ、価値観を持つている。ほとんどが性善説の環境で育ってきた連中だ。ところが塾で扱う生徒は大半がワルガキ(私の塾は進学塾ではなく、補習塾だから)。彼らの価値観を性善説から性悪説に切り変えなければならぬ。これが最も重要で大変な仕事なのだ。

さて、脱線を戻し、我々保守陣営とヒダリ組みとでは圧倒的にヒダリ組が多いのだから、思想、理念の宣布合戦をしても絶対に勝てる訳がない。一人一人の人でワグビィをやるような話だ。その負け試合を今ままで飽きもせずやってきた。故に実力行使以外にはない。実力行使には角が立つ。ワルガキ相手は、角がたとうが立つまいが、事の白黒を付け、黒にはお尻ペンペン以外にないのだ。角が立つことを怖がったら何もできないのだ。

ワルガキ・・・組合や刺青のお兄ちゃん。絶対クビにならないと、歴代の市長が甘やかしてきたから、いや、力関係においてイチアシブを取られてしまったから、大阪市は「ワル」のデパートになってしまった。橋下を理解出来る人は性悪説の必要性がわかる人。性善説しか理解できない人は橋下を理解できないだろうし、性善説が全てと建前論でカッコを付けている左系マスコミは永遠に橋下市長を認めないと思う。

語るじつよりも答えを出すことがもっとも重要

一番いい例が、名古屋市長の「南京大虐殺はなかった。」という発言。保守陣営は皆彼を持ち上げ、拍手喝采。ところが橋

下市長にこの件でインタビュをうけると「モ」「モ」「モ」。訳が分からん。そこで保守陣営の論客は「橋下は国家観がない」とこぞって酷評した。

新聞発表があったので話すが、大阪で「近現代史を子供たちに教える資料館」(仮)が造られる。あれだけ予算をカットしているなかで、橋下市長肝いりで作るのだ。「子供たちが安心して近現代史学へる施設を作りたい。」と周囲に漏らしているらしい。監修は「つくる会」を中心に人選中。そして左翼の聖城「ピース大阪」や「リパティ大阪」は解体。(ざまあみる!)

橋下はイデオロギーで政治をしない。政治は論理であって好き嫌いではない。イデオロギーを政治に持ち込むな。思想信条は自由だ。しかしルールは守れ。という考えだ。

響き覚悟で言ったなら、「首長に国家観は不必要。保守であろうが無かるうがどうでもいい。善は選挙の多数で決まる。」と言いたいのかも知れない。「善」を決めるのだから選挙は神聖でフェアでなければならぬ。だから組合丸抱えの不正選挙を許せないのだろう。

彼は国家観もあり、極保守だ。しかしそれを表に出してしまうと、前述したように数で負けてしまうのだ。議会制民主主義において、選挙での勝敗がこの善悪を決める。いくら理屈をこねて正論があっても、選挙で負ければそれは善ではない。それが現実で、その中で自分の意志を通さなければならぬ。通すだけではなんの意味も無く、実現しなければならぬ。要は「何をしたか」ではなからうか。何をしたかによって、後で「国家観」があつたのかなかつたのか判断したらいではないか。言いたくはないが、

河村名古屋市長・「南京大虐殺はなかった。」と言っただけかい。何もしないよ、何も言わないよりはマシだけど。皆が認める「国家観」の塊のような某議員。何をしてくれるんだ。言う(湯)だけか。草津温泉じゃああるまいし。

『自民党』もうちよっつこっかりできないか

片山さつぎの河本攻撃

巷間、吉本興業のお笑い芸人、河本の母が生活保護を受給していた。これが不正だ。河本に親を養護する能力が十分あるじゃないか。と大騒ぎである。雑誌やワイドショーはケンケンガクガク!

事のいきさつは雑誌にこのことが報道された。多分自民党のリークだろう。そしてそれをネタに事もあろうに片山さつぎ参議院議員が国会で追求を始めたのだ。

先ず、「何がおかしい」と言ってもおかしいのが、国会とは個人攻撃する場なの。国会議員の不正なら個人攻撃もありだろうが、河本はたかが一芸人ではないか。河本の不正を正すのは市役所の担当者であって、国会は国全体のことを議論する場。「しばしば、子供が母の生活支援ができるのにそれでも生活保護を受給している人がいる。これはおかしい。」と質問すべきで、「河本」という名を出す必要は全くない。河本は公人か。システムを変え、子供に養護させる法整備が国会の仕事ではないか。いつから吉本の首を取ることが国会の仕事になった。

そもそも、生活保護の不正受給は、そのメッカ、大阪市の西成にメスを入れることから始まっているのだ。

【弊M情報127部 H24-2-1546G】

橋下市長はよっつこっか命をかかけたな

・・・「命をかけて」「命をかけて」・・・

さて、本当に命をかけた政治家、命をかけた彼、貴兄は知っていますか。私はそんな人一人も知らない。もちろん私も「命をかけて」運動などしたこともないし、できません。・・・橋下市長は結果としては法制度の問題でできませんでしたが、西成区の区長に御自ら就任すると表明されました。実はこれ、肉体的「命をかけて」を意味するのです。大阪市西成区は生活保護天国。住民の約23%が生活保護を受けています。彼らには月額4万円の住宅補助金が支給されます。そこに目を付けたのが、地域の簡易宿泊所のやり手おばちゃん仲人のヤクザ屋さん。ここ西成、愛隣地区は東京でいう山谷。日雇い労働者の居住メッカなのです。

簡易宿泊所の一部屋は2畳半。そしてその部屋を簡易宿泊所ではなく急遽「賃貸マンション」として賃貸。家賃4万円で日雇いのおっさんに賃貸契約を結びます。そしてその契約書を役所に提出し、住宅手当4万円をゲット。そして、それを日雇いのおっさんと大家、仲人のヤクザ屋さんと仲良く分け分けするわけです。これが、西成の貧困ビジネスの実態。

じつは以前からこのことを知っていた不肖マスキは、数年前西成区役所に何回も怒鳴りに行きました。ふざけるな。コラ! 行政は現場を見に行け。実地検証をしろ。等々。そしてそのとき、「事情の詳しい人」に言われました。「増木さん、『命』ヤバイよ!」と。要は、この問題にメスを入れるということは、ヤクザのしぎ(餌箱)に手を入れるということ

で政治運動とは次元が違う話なのです。

橋下市長は警察O.Dを中心に不正摘発予

ームを作って摘発にかかっています。

この件で、また橋下の手柄が増え、人気が挙がる。それに恐怖を感じた自民党中央が(自民党大阪も泣きついたのでしょうか)仕組んだのが今回の河本の件です。要は後出しジャンケン。そう言われるのが嫌なら、なぜ今までやらなかった。自民党は全部これ(後出し)じゃないか。国の立法機関が、個人攻撃してどうする。片山さつぎのやったことこそ避難されるべきでは。

自民党、いつから組合を当てるようになった

「5月22日 ABCニュース」より引用

財政総務委員会では自民党のK市議は「事務スペースが足りない」という理由で、組合が庁舎から退去させられたことを引き合いに、「何で労働組合が出ていかなきゃあかんのやろな。地下の食堂が796平方メートル持つてるわけです。ここに出て行ってもらったら、労働組合が出ていかなくてもよかったのと違つかない指摘しました。市の部局の中には、高い賃料で民間のビルに入居しているところも

あり、K市議は、「組合を出て行かせるなら、テナントを全部出して、部局を市役所に戻せばいい」と主張・・・

大阪府自民党とはもはや(二)まで

私と維新の関わりですが、私は新しいことに何となく消極的。もともと、私は維新には距離を置いていました。橋下氏が鳴り物入りで知事に就任。「ふくん」という

感じ。そして就任まもなく(2013)、朝礼で女性職員(後で分かったことだが『極左』)が始業前の朝礼を拒否するような発言。橋下知事は早速噛み付いた。その時はそのことは支持したが全面支持は出来ない。「様子見」が続きました。

そして、2019の、私が事務局長を仰せつかっている「NPO法人百人の会」辻淳子理事長(現大阪府議会議員)より、「増木さん、私に言いたいことがあるやろ。でもしばらく黙って見ていて」とお言葉があった。その数日前、辻理事長が自民を離党し維新に入ったことは新聞報道で知っていた。私は辻議員を人に紹介するとき、「議員70年、自民党です。」とよく言った。半分は茶化しているのだが、祖父、自民党。辻議員は3代目で、合計で議員生活70年になる。その議員が自民を離党。真に『まさか。何で!』である。今はその意味がよくわかるが、そのとき辻議員が言われたのは「自民党は何もさせてくれなかった。みんな上から言われるまま。何を言っても『アカン、アカン』で、できない。大阪は今大変だ。やらな

あかんことがたくさんある。維新ならできる」である。私は性格的に、みなさん信じがたいだろうが、浮気っぽくない。一日信じたらとことん信じる。辻先生の言葉がよくわからないまま信じた。それから統一選挙や西成の生活保護受給正常化。その他次々に改革。辻先生が日に日に輝いてきた。変化している。たしかに変わると徐々に確信が持ててきた。辻先生とどこかで橋下に口説かれ、橋下を信じた。私も「信じて」の一言で辻先生に口説かれた。見返りなど何も無い。見返りも無い。そんなもので政治が変わるものではない。そして教育基本法が府議会、市議会と成立。《次頁4段目頭へ↓》

ヤンキー先生橋下教育改革を評価

ヤンキー先生 橋下徹教育改革は、脱日教組” に繋がるか評価

NEWS ポストヤンキー 4月29日(日)

「大阪から日本を変える」と豪語し、次々と改革に向けた施策を打ち出す橋下徹・大阪市長。中でも教育改革をめぐる、教職員組合と激しいバトルを繰り広げてきた。自身、教育現場で日教組の偏向体質と闘い続けてきた「ヤンキー先生」と義家弘介・参議院議員は、橋下氏による教育行政の抜本改革に期待する。

昭和 20 年代から現在まで、日教組は教育現場を舞台にイデオロギー闘争を繰り広げてきた。私は、北海道での教員時代やその後籍を置いた横浜市教育委員会、さらに安倍内閣の教育再生会議などを通じ、彼らの実態を具(つぶさ)に検証してきた。そこにあつたのは、児童や生徒などそつちのイデオロギー闘争にひた走る、驚くべき教師たちの姿だった。

中でも「日の丸・君が代」問題は日教組の偏向体質の象徴である。これまで、「赤い教師」たちは、自らの信条のために、公務員ならば当然守るべき国旗国歌法や学習指導要領を無視し続けてきた。

私が入手した北海道教職員組合(北教組)の内部文書によると、「練習段階での一時退席」「全員で校長に抗議」といった「日の丸・君が代闘争マニュアル」まで作成していたほどだ。

こうした日教組の問題に正面から切り

込む橋下徹氏の問題提起は、私の認識と共通している。

橋下氏が府知事時代の昨年 9 月、大阪府では学校行事中の国歌斉唱を「起立により斉唱する」と定めた条例を制定した。思想信条の自由を盾に反抗する勢力を「国旗国歌を否定するなら公務員をやめろ」と一蹴し、混乱が予想された今春の卒業・入学式シーズンを乗り切った。

また、橋下氏が市議会で「教育現場の人事はでたらめ」と指摘したのは、組合が人事を主導している現状を指している。私が教育委員を務めた横浜市中でも、組合が人事に介入し、教師の求めに応じず赴任地が決まる「希望と承諾」の人事が罷り通っていた。各教員は、人事で冷遇されないように組合の顔色ばかり窺い、校長や教育委員会の権限は骨抜きにされていたのだ。

その結果、教育現場はどうなったか。本来、児童・生徒のためにあるべき学校は、教職員が労働者の権利を主張・行使する場になり下がった。教師の協力がなければ学校運営できない校長は、常に組合の圧力に晒され、手足を縛られている。組合や事務局に牛耳られ形骸化した教育委員会では、問題が起きた時に誰も責任を取らない……。

教育現場を覆う無責任体制は、「日教組支配」の弊害と断じるほかない。橋下氏が大阪で進める諸策は、「脱・日教組支配」に繋がる施策として評価できる。

大阪府で今年 4 月から施行された職員基本条例では、同一の職務命令に計 6 回違反した教職員を免職できると定め、

処分を厳格化した。同時に施行された教育関連の条例では、学校運営に関する責任と最終的な意思決定の権限を校長に与えた。さらに、教育行政に対する首長の関与を強化し、保護者の学校運営への参加を定めている。これらは、組合に支配されてきた公教育を、児童・生徒や保護者など、地域社会の手に取り戻そうとする試みだ。

橋下氏の過激な発言と大胆な手法には反対の声も多い。しかし、教育現場を蝕む「日教組問題」の異常さを明らかにし、全国に発信した功績は大きいと私は思う。※SAP02012年5月9・10日号

自民党は、保守党たりのえないのではありません。以上

H244月29日(日) 湯澤甲雄

早速ながら、増木さんが申される『橋下市長はイデオロギーの好き嫌いで組合を排除するのではなく、法的にフェアでないことを指摘する。そうすれば勝手に組合は潰れる。それを「新しい切り口」と私は理解した。』は、私も全く同感であります。しかも拙つて立つ「法」は現行憲法体系の下に定められた「法」であつて、その下に行われる自由民主主義を普遍的の原理とした政治であつて、それに反する政治原理を一切排除する事を現実に行う政治であり、これが「新しい切り口」なのであります。しかしそれを実際に行うやり方としては、健全保守勢力の所在によって、異なってくるのであつと思

います。健全保守の弁護士団の揃つている大阪では、橋下弁護士を中心とした大阪方式を全国に及ぼすことが考えられます。健全保守の議員団が歴史的に比較安定的に存在する神奈川県 《下段中央へ》

《前頁末尾より》

私が今までしたかったことを維新は果たしたから実現していく。それから河本のお母さん件。そして、K市議の発言。止めは市会議長の選挙。維新・公明は辻淳子議員を推薦し 52 票。2 位は自民・民主・共産推薦の件の K 議員。33 票。議長選挙は党派の数を読めば分かる。K 議員が 2 位は始めから分かっている。なら、共産だけは棄せて欲しくなかった。自民の「票で特攻し、玉砕して欲しかった。大阪をコントロール出来ない自民党本部もすっかりしていただきたいが、自民党の大阪府連とは私は決別する時が来たよつだ。気持ちの整理がついたら、不思議と体調不良も止まった。

《上段末尾より》

県では、県議会に柱を立てた神奈川県方式を確立させて、全国に及ぼすことが考えられます。それぞれの地方によって、やり方は異なってくるはずですよ。

去る 3 月 22 日、自民党「教育基本条例に関する P1」(下村博文座長) が発表された。項目の目標は、目標やこれから制定する法が書かれているだけであつて、今現在それを実現する政治の進め方が明らかではありません。これでは生ぬるいのです。「法案」を国民に提示し、それを国会又は地方議会の何れの議会で議決すべきか、党内即決で示すべきです。

5 月には、地方議会では第 2 回定例会が開かれますが、自民党本部と地方支部との間で地方議会に上程すべき議員提案議案が決められているべきであつて、本部の地方組織に対する法律面の支援(条例案文等)体制、本部、地方の迅速な連携組織なくして、左翼の全国的組織に対抗できるはずがありません。

御所市議会にて神話の質問

平成23年12月 御所市定例会

12月12日 杉本延博議員

◆4番(杉本延博)

次は、教育についてお伺いしてまいります。

それでは、1点目は郷土愛を幅広く教育で、神話教育についてをお伺いします。

教育基本法の中に「国、郷土を愛する心を養う」と明確にうたわれています。郷土愛を幅広く教育の基本といたしまして、郷土の歴史、伝統、文化、偉人などを学習することから、地域に愛着や誇りを持つ心が生まれてくることだと思えます。

全国の自治体を見ましても、郷土愛を育む教育が盛んであり、例えば朝の時間に市歌を教えるところ、埼玉県では郷土かるたを作ったり、独自の教材を作るなど、特色ある取り組みが行われています。もちろん御所市内の学校でも、ごせまち探検、ひむろの体験学習などの郷土学習、郷土の偉人、修験道の開祖、役行者の名前を取り入れた役行者杯算数大会を開催するなど行われていますことは、大変よいことだと思えます。

さて、日本の歴史から神話を教えることが消えたのはいつごろからか。アメリカGHQによる戦後占領政策の一環として教育改革が行われ、歴史、修身、地理の教科書が墨塗りされたことに始まり「民族精神を絶滅させるのは、その国の歴史を抹殺することだ」と言われた人がいますが、その言葉どおり忠実に実行された結果が、日本人のアイデンティティ

喪失の一因になっていいると思えます。

戦後、日本の歴史から神話が消えただけではありませんが、ここ最近、教育基本法、学習指導要領が改正されてから、小学校国語低学年用教科書に「因幡の白兔」「ヤマタノオロチ」が取り上げられたり、歴史教科書の中に、少すすつではあります。神話が記述されてきています。神話を学習することから、真の歴史伝統文化の原点を理解することができます。

昔に、元高千穂商科大学教授名越一荒之助著の「世界に生きる日本の心」という本を読んだことがあります。最近、その本の中の外国の教科書にあらわれた日本の項目を読み返してみました。世界が賞賛する日本の歴史、人物として、日本神話、元寇、一宮尊徳、教育勅語、東郷平八郎などが世界の教科書に紹介されています。日本神話に限定してみても、各国でも、特にアメリカの教科書には、国生みから天孫降臨など日本の教科書よりもかなり詳しく説明されています。戦後、日本の歴史教育から神話が消えたわけですが、日本の歴史、伝統、文化を理解して、真の国際人に育っていくためにも、神話教育は必要不可欠であり、復活を望むわけです。来年から始まる記紀万葉プロジェクトに家族連れで行かれる生徒さんも必ずいます。知らないで行くよりも知ったほうが数倍楽しいはずであります。

また、再三述べましたように御所市は神話の郷土であります。記紀の世界を身近に体験できるすばらしい郷土であります。来年、古事記1300年を迎えるに当たり、古事記のこと、神話のことを取り上げてみてはどうでしょうか。

るに当たり、古事記のこと、神話のことを取り上げてみてはどうでしょうか。

◎教育長(上田貞夫) 杉本議員のご質問にお答えいたします。

まず、郷土愛を幅広く教育で神話教育をということなんですが、御所市教育委員会では、学校教育の具体目標として、郷土や自国に対する理解と愛情を培い、国際理解を深めることを通して互いに尊重し合う態度を育てることを掲げ、郷土を愛し、ふるさと御所を誇りに思う子供の育成をスローガンに日々教育に取り組んでおります。各学校においては、この指導方針に基づき、その具現化を図るべく、各教科、領域において、取り組みを進めております。

小学校では、郷土を理解することをテーマに、人々の暮らしを支え見守る各施設や各種機関の役割を理解し、また、我が国及び郷土の発展に尽くした人々の生きざまや歴史を理解することを通して、郷土やそれらの人々への感謝の心とともに、みずからもその一人として生きていくことを理解させることとしております。

中学校においては「郷土に生きる」をテーマに、職業体験や勤労生産体験、あるいは自然環境問題学習を通して、郷土の発展、文化、自然とをみずからの体験から学び、郷土愛や郷土を誇る意識を育てる取り組みを行っております。さらに、これらの取り組みを通して、みずからが郷土に生きていくことの自覚と責任をも培おうとしております。

議員ご指摘の神話や地域における伝承等は、当時の人々の物の見方や考え方に触れることができ、郷土への関心を高めることのできる教材であると考えております。

さらに、御所市には歴史的遺物や遺跡が数多く明らかになっております。これらを身近な教材としてとらえ、それぞれの学校の実態に即しながら特色ある教育活動を進め、郷土愛を幅広く教育活動を進めてまいりたいと考えております。

◆4番(杉本延博)

まず初めに、神話教育についてご答弁いただきました。物の見方、考え方を教材としていくと、御所は古事記、神話ですね、神社、史跡とか、大変身近に体験できるものがたくさんあります。身近な教材として特色ある学校づくりを進めていきたいという答弁をいただきました。

来年の古事記1300年祭であります。何か神話、取り上げていただいて、生徒さんに郷土に誇りを持ってもらう。こんなすばらしい日本の発祥の地なんだなということを実感していただきたいなと思うんですけども、その辺は取り上げていただくことはできますでしょうか。

◎教育長(上田貞夫) 神話あるいは民話、伝承ですね、日本に古くから伝わる、あるいは御所に古くから伝わる神話とか民話というのは、子供に教えることについては大変よいことだと思っております。

ただ、歴史とリンクするということになったら、いろいろ問題が起きてまいります。そして、ふるさとを愛する、郷土を誇りと思うことについて、この神話を教えることについてはどうかということなんです。ふるさとを誇りに思う教育の仕方、前にも申しましたように、地元川掃除、空き缶を拾っても、ふるさとを愛する教育もできるわけです。たくさんさんの選択肢がございます。その中の一つとして神話を教えるのも、これも一つの方法だと考えております。その選択は現場の教師に任せたいと思えます。

日米開戦の悲劇を読む

東京 浜田 實

『日米開戦の悲劇』・・・シヨセフ・グルーと軍国日本・・・
(福井雄三著・PHP研究所・1600円)
を読んで 24年05月03日

「縁があつて名著と巡りあつた(私が選ぶ今年のベスト)。この本は史実をもとにまとめた実に客観的な内容である。日米戦争の本は多くあるが、それらをつまみかきしてくれた本といふべきだろう。」

「帯に『渡部昇一氏絶賛!』とあるが、読んでみて、それは渡部氏の本心であることを私なりに深く確信した。自信をもつて必読の書としてお勧めできる。」

グルーは1932〜42年まで駐日大使を務めたアメリカ人。この期間は5.15事件から日本の国際連盟脱退、22の事件、シナ事変、そして対米戦争突入という怒涛の歴史でもあつた。日米戦争は共に死活をかけて戦つた戦争である。

結論からいえば、彼には、当初、白人ゆえのアジア人に対する偏見もあつたと思つたが、実は実直な性格で、理性と礼儀と節度を重んじる外交官であつたことが、日本にとってまことに幸いであつた。終戦時には原爆投下という不幸もあつたが、何とかそれを防ごうと裏で努力したのもグルーであつた。ところが、今もつてそのことを多くの日本人は知らない。

彼の夫人も、グルーに共通して自身の身体的障害をもつていた。故に夫妻は共に似通つた精神体質、価値観を持つ一つの律儀な人間であつた。そして10年に渡る日本での生活を通して、共に親

日的なアメリカ人となり、陰ながら日米友好に貢献した。彼の孤軍奮闘の内容は本をお読みいただくとして、自分なりに頭の整理も含めてポイントを紹介する。?戦略的、戦術的な大失敗を誘導したのは、海軍であり、殊に山本五十六の責任は極刑に値する。海軍の情報隠し、正直でない体質が、戦争突入を早め、かつ終戦のタイミングを遅らせ、ついには原爆投下を導いたともいえる。

戦争はやむを得ず突入することも多々あるが、基本的には「負ける戦争はしてはならない」本書は様々な戦術事例を示しているが、度重なる海軍の虚言報道が、戦争末期における陸軍の作戦をも大きく狂わせたとある。

レイテ島における、栗田艦隊に見捨てられた日本軍(陸軍)兵士の全員餓死も悲惨である。ルソン島守備隊も為す術もなく、全滅した。

「・・・上官のもとに、どれだけ多くの有能で立派な海軍軍人たちが犬死にをしていったことか、その無念さは想像にあまりある。無念の死を遂げた多くの帝国海軍軍人たちよ、安らかに眠れ。海の勇士たちに栄えあれ」(福井雄三)

山本五十六評価は福井氏にお任せするとして、昭和11年前後、山本元帥から橋本徹馬氏あての書簡があるので、紹介する。山本元帥と橋本氏との関係や、橋本氏とのグルー大使との交渉史についても、今後資料を確認し次第、紹介したいと思つている。(浜田)

「久々に貴信拝受其後は暫く郷里に御隠棲中なりしとか氣違相手では怪我損でも可申か御同情に不堪候小生海上4年全く世間と没交渉にて専ら潮の辛さを味来候へば国際関係等も如何のものかや不存候へ共最早中立国等にかかりあい居りても間にあわざるべく斃すか斃るる」

かの外無之と覚悟を決めてかかるべきの秋と存じ小生は敢て敵国恐れざるも味方方面には時々畏入らされ居候始末にて真に憂慮に不堪と感居候折角御自愛上候敬具十七年十一月末山本五十六橋本徹馬殿」

このとき、橋本氏は戦争を防ぐべく日米交渉に努めていたのだ(グルー大使とも接触)が、憲兵隊に拘引留置されていた。山本元帥の書簡は遠まわしに、軍部主戦派の強引なやり口を婉曲表現であるが憂慮されていることが分かる。

?グルーは20年の任期を終え、帰米後、國務省極東局長に就任、その後著書『滞日十年』が出版された。この本と、彼の二年余りにわたる東奔西走による全米での遊説活動は、アメリカ人の乏しい対日知識に基づく我が国への誤解を解くうえで大きな貢献をした。

日本と死闘を繰り返したアメリカ人は、日本軍の勇敢果敢な戦いぶりを、心底畏敬の念をもつて感じ始めていた。

?1944年12月、病気がちのハルは國務長官の座を退き、次官のステイニアスが長官となり、グルーは國務次官となった。先の出版と遊説活動に続く、終戦処理に向けた8カ月にわたる、彼にとつて第二の総決算、大活躍が始まった。

?ルースベルトは大統領選挙で、史上、前代未聞の4選を果たし、4期目の任務に就いたところであつたが、彼は日本を心底から軽蔑していた。彼の人種差別は

最たるものだったが、日本民族をしてこう言い放つた。

「日本人は頭蓋骨の形状が欧米人と異なる劣等民族であり、彼等が世界を征服するなどという暴挙を企てるのは、このような劣等遺伝子のなさしめるわざである」・・・と。彼のこういう偏見は、彼の先祖が奴隷商人であつたこともあり、偏見と差別意識が骨の髄まで染み込んでいた。

?ルースベルトの跡を引き継いだトルーマンは、政治家としてスプの素人であつた。権謀術数においては、ルースベルトの巨大さにはるかに劣つていた。それは、ルースベルトの強硬路線から宥和路線に変わる可能性も芽生えてきたことをも表していた。

?グルーは、國務省の中で、これは大きなチャンスともみていた。トルーマンによる対日講和条件に天皇制存続をほめめかす文言を織り込むよう、トルーマンを説得した。陸軍長官スチムソンもこれに同意した。

スチムソンは知日派であり、戦前の日本をこよなく愛していた。アメリカ空軍による京都爆撃計画に体を張って阻止したのも、スチムソンであつた。だがこの計画も、マシーナル参謀総長が「まだ時期尚早」として反対したため、グルーの企ては失敗に終わった。

?このとき、アメリカ軍部は、原爆実験が成功し次第、間髪を入れずに、日本に投下すべくひそかに決意していた。アメリカは、この恐ろしい誘惑に勝てなかつた。日本に投下しないと永久に原爆投下のチャンスは失われてしまうと考へていた。悪魔のささやきはトルーマンも周辺をも魅了する力があつた。
?グルーの最後に残されたチャンスは、

ポツダム宣言に賭けることであった。この宣言に天皇制存続を暗示する文言を入れることさえできれば、日本は面子を失うことなく降伏することができると考えた。

間一髪のところ、ソ連参戦と原爆投下を阻止することができるだろうとも考えた。スチムソンもグルーの考えを支持し、トルーマンにその宣言草案を提出した。

残念なことは、ここでどんでん返しが起こったことである。7月3日、親シナ派のバーンスが新しく国務長官に就任した。これで一気に流れが変わり、国務省内では対日強硬派が頭をもたげ、グルーの最後の努力もここに潰える結果となった(こういふ、どんでん返しも、歴史は“宿命”を抜きにして考えられないと言われる所以である)。

7月3日、米・英・支三国の名で対日降伏勧告、ポツダム宣言が発せられた。宣言にはグルーが目論んだ天皇制存続を仄めかす文言は削除されていた。文言を削除したのは、原爆を日本に投下するためにアメリカが仕組んだ「畏」だった。

鈴木貫太郎首相の「ポツダム宣言を黙殺する」という公式声明中の“黙殺”は、英語の“拒否”と翻訳され、原爆投下の口実に使われてしまった。日本はアメリカ側の「畏」にまんまと嵌ってしまった(Toopが如何なる結果をもたらすかの教訓がここにもある)。その後、長崎にも原爆が投下された。ここに来て日本政府は8月10日の御前会議でポツダム宣言受諾が決定した。日本はこの段階においても回答のなかで、ひとつの条件として「天皇の国家統治の大権を変更しない、という了解のもとにポツダム宣言を受諾する」というものだった。

この段階においても天皇制存続にこだわった日本。これが日本にとって妥協できるギリギリの最後の線であった。もしこれが拒否されれば、民族が滅亡するのを覚悟のうえで本土決戦を行うしかなかった。日本政府にとっても、実につらい回答であったことを、我々はよく認識する必要がある(皇室に関わる問題を安直に語れない背景がここに在るのではないか。ときに皇室に対する慎重意見が出るのも、奈辺に在るものと思う)。

(ここで、閑話休題)

民主的と伝統との聞き合ひであるが、この議論はあくまで根本的な「國体論」の中でこそ語られるものと思う。岡田さんの「天皇はじめ皇族の方々に、最高の人格を求めることは間違いであると思っております」。

更に皇室は、所謂“開かれ”てはならないものとも思っております。天皇はじめ皇族方の地位と人格が一致することにすることはありませんが、それ以前に『人間である』ということを考えねばならないと思ひ、傅育官や教育掛(東宮御教育常時参与)、宮内庁長官、侍従職等々にそれ相当の『人物』が配置され、お仕えしているかどうか力ギとなると思ひます。』はその通りであり、“それゆえ、慎重を期すべきものともいえます”。

なぜならば、その時代、時代で必ずしも、それ相当の人物が選ばれるかという保証もないし、また時代の雰囲気、時代相の不出来の人物が選ばれることもあるからです(今の時代を見ればお分かりでしょう)。

昭和天皇における御裁断の御苦しみも、まさにこの聞き合ひのなかにあります。

した。先日、大東亜戦争に関するある勉強会で、隣席の方が「戦前という時代、当時の平和は“戦争の合間の”平和だった」。

しかし戦後は平和のなかの戦争だ。平和も戦争も、戦前と戦後を同列に論じることができない」と発言されていたが、昭和天皇はそういう時代の環境に置かれていたことを、我々はかたときも忘れてはならない。

戦後我々の安直発言はすべて戦後言語空間のなかでの安全圏での発言であることに思いを致さねばならない。スチムソンは、この機に及んでも、なお天皇制の要求を貫き通している日本の姿に、心底感動していた。彼はそこに武士道の究極の姿を見たのである。ここまで覚悟をしている日本に対して、これ以上の殺戮を行う必要がどこにあるか・・・と。

だが対日強硬派のバーンス国務長官は、それを否定するかのような発言をしたが、トルーマンはフォレストアル海軍長官の次の意見に同意したという・・・「天皇性護持という日本の最後の要求を受入れる含みで、しかもポツダム宣言の内容が確実に達成されるような降伏条件を、日本に示すべきだ」

アメリカの最終回答はこういうものであった。

「戦後の日本国の政治形態は、日本国民の自由に表明された意思によって決定されるべきものとする」

天皇制存続に関し、明確な保証はしないが、けっして否定するものではない。プラフを散らつかせつつ、アメリカの面子も考えての曖昧な表現ではあったが、天皇制存続の暗黙の了解であった。

これがもし、アメリカ側の一方的な強硬意見で天皇制存続を拒否するものであ

あったなら、果たしてその後の歴史はどう展開したであろうか？

日本は消滅していたのではなかったか。終戦交渉は、まさに綱渡りの交渉であった。それが何とかアメリカをして、思い止まらせたものは、硫黄島の、あるいは沖繩戦における日本軍の、最後の奮戦が敵の心胆を寒からしめ、それがアメリカ側から譲歩を引き寄せたからである。

戦争とは、愚かさ賢さ、誠・・・などが相対するなかで戦われる戦闘である。その勇気や美談には称えられるものも多々あるが、だからといって、戦争は膨大な悲惨、犠牲を考えたとき、決して手放して称えるものでもない。しかし、防衛戦争は在るか、問えば、確かに在るということと言える。

グルーは戦後、連日の過労がたたり、端正なマスクの面影も消え、外交からも身を引いて読書三昧の日々を送った。愛した日本の土を二度と踏むことはなかった。彼はバスターセラーとなった自著『滞日十年』の印税をすべて国際基督教大学の設立資金として寄付している。

1950年、妻アリスが亡くなった。心やさしき彼女は、広島原爆投下の報告を聞くと、シックで失神し、数日間寝込んでいた。

この二人が、最後の最後、日本の消滅を救ったともいえる。彼等の共通項は冒頭にも触れたが、人間としての謙虚さであり、誠の精神であった。これを小さなことと言ふなけれ。天職の意識をもって生きる人間の行動は、大事な局面で、生きるということである。政治の舞台ともなれば、悪魔のささやきでさえも覆すこともできる。それが100%といわれないまでも、大きな影響を与えることが出来る。

丹羽経済学の神髄

工24-5-4 【純日本人会】 栗原茂男

4月29日に四谷で丹羽春樹経済塾が開かれました。丹羽博士と言えば、政府貨幣論の第一人者として高名な方ですが、本当は政府貨幣論だけではなく、ケインズの思想的意義についても熱心に主張されています。今回もやはり思想的な面からの講義がありました。

ケインズは1883年6月5日生まれで、同年3月14日にカール・マルクスが亡くなっています。

英国で産業革命が起こり、封建制から自由主義の時代が始まり、フランスでルソーが活躍して人民主権の思想が西欧で広まり、1789年のフランス革命があり、好景気と大不況が繰り返す時代に突入します。そして1848年にカール・マルクスとフリードリヒ・エンゲルスの共産党宣言。ここまでは中学、高校の世界史の授業で習った話。

丹羽先生によるとケインズはこういう時代背景の中で経済学を越えた思想史の範囲にまで及び業績を残していることを強調されています。当時の経済学はマシナルが完成したとされ、市場は自由にしてあげば価格の調整機能が働いて全て巧く行くという結論です。しかし現実には好景気と不景気の繰り返し。マルクスはそこを把えて資本主義にはそういう事態にならざるを得ない矛盾が内在している、だから共産主義でなければならぬと結論付けています。それに対し、ケインズは歴史主義、決定論、ニヒリズムに対し、人間の英知で不況は克服出来る

という論理を経済学的に展開しました。フランスのアルベルト・カミュや哲学者のカール・ポパーなどと同じくする傾向の思想です。そしてそれはケインズの経済学は当時の欧州を覆う社会思想に真向対立する学説でした。ケインズ革命と呼ばれる所以です。そんな講義内容の展開でした。

それで現代ですが、日本もアメリカも欧州も反ケインズ経済学一色。不可解なことこの上ない。日本政府の発表では日本の生産設備の稼働状況は97%かその前後くらいだと言っている。しかし97%と言っるのは超完全雇用状態。そんな話、巷で聞いてみれば良い。どこが超完全雇用なもんか！です。如何に浮世離れした話か直ぐ判る。更に政府の発表で出鱈目なのが乗数効果。乗数効果と言っは自生的投資が数倍の国民所得を生み出すという理論。日本の場合、その数値は昔から約2.5倍。年により多少のブレがあっても、1か2程度。数値は政府が発表しているし資料を見れば一目瞭然。当初私は政府の発表を聞いて、乗数効果の概念が変わったのかも思いました。しかし7、8年くらい前でしょうか、雑誌のインタビューだか対談だかで竹中平蔵氏が述べていたのですが、日本の乗数

はかつては2.5だったのが最近は何故か1.1か1.0なんですと述べているのです。つまり概念は変わっていないわけでは政府は政府自身が発表している上記の資料をどのように説明するのでしょうか？ 好い加減なものです。 《下回後部へ ↓》

《 ↓ 前ページ末尾より》

20世紀という時代は、戦争の常態化という修羅場であり、白人至上主義や人種差別が横行する百鬼夜行の時代でもあった。その時代にあつて、まさに粉骨砕身働き、努力する愚直な人間が居て、究極の破壊から免れるということが現実になつた。

それは利害得失を超えた行為であつた。アメリカには、ルーズベルトという恐ろしい悪玉も居たが、グルーのように高潔な人物、あるいは東京軍事裁判で見事な日本擁護の弁論をしたローガン弁護士、フアーネス弁護人のように、敵国日本を裁く軍事法廷においても、法の公正を堂々と訴えることのできる第一級の人物が居たのもアメリカという国家であつた。

アメリカという国は、昔も今も一色で見ることが危険であるが、日本人は、そう見る人が今でもけっこう多い。もちろん偉い人物は日本にも多々居るが、こういう偉大な人物をどうやって世に輩出させるかが、今この日本で、まさに問われているのではないだろうか。

仄聞する教科書の著作権侵害問題で不正行為に対して無視を決め込むような、あるいはその事実を知らながら支援の姿勢を崩さない関係者には、こういう高潔な人物を育成できる資格も能力もないものと考え次第です。

これほど戦争は悲惨であつたが、それ 《 ↓ 上回末尾より》

その話を丹羽先生切り出すといい終わらないうちに「概念は変わっていない」でした。

でも、今日の価値観で過去の史を裁いてはならない。あくまでも過去に生きた人々の視点に立ち、の状況にわが身をおいてその時代を洞察しなければならぬ。我が国の、日米戦争をきちんと総括をしてこなかったツケが、いまいろいろなかたちで現れて、オタオタしている。これが福井氏の訴えのポイントです。

最後に過般の戦争は、愚かではあつたが、敵味方とも、ここから大きな教訓を学び取らねばならない。世の中には因果応報というものもある。如何に真因を誤魔化したとしても、いつしか、何らかのかたちで清算や、歴史の復讐が行われる。

それが世の中というものだ。考えてみれば、歴史を学ぶということは、人間の愚かな行動を客観的に分析、吟味し、右に左にと揺れるなか(闘争、戦争の繰り返し)で、とつおいつ、本来のすがたに向かう人類の足跡を明確にしようとする営みではないだろうか。

また繰り返すが、皇室関連の発言は、こういう歴史の綱渡りの背景とそ重みを十分踏まえて行うべきものと思う。自信がないときは、それこそ「いい意味での沈黙」を保つべきと考える。

福井雄三氏の本著はこの意味で、日米戦争におけるひとつの総括版(のひとつ)である。皆様にも御一読をお勧めします。皆さまなりに総括してください。

橋本徹馬氏の日米交渉秘話も、シリーズで発信します。いまその本が神隠しにあつています。以上

実は丹羽先生、今回講義をお聞きしても私はわからなかった。ただ覚えてるのが「増木君とこ塾だよね。印刷機でお札刷ろうよ」と言われたことだけ覚えてる。娘の母校、元大阪学院大教授 増木

日本国憲法起草の特異性について思う

防人を励ます会 奥中正之

米国の建前と本音

戦時国際法及びポツダム宣言の規定よれば、戦勝国は敗戦国の立法権への介入は許されない。勝ち組は負け組に対して何でも出来るのが国際政治の現実ではあるが、「人類の正義」を標榜した米国の建前と本音との乖離がかくもあざやかに描き出されたのが、日本占領だった。

白系米人がアメリカンインディアンに行った反人類正義の行為を見ると、彼らにとっては当たり前の行為だったのである。彼らは押し付け憲法で日本民族の歴史を分断した。西村眞悟氏及び菅沼光弘氏によると、次の解釈となる。

先ずは関係する憲法前文を引用する；
 「そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。」

西村氏によるとこの文章こそわが国の戦前と戦後を分断しているのだから、すなわち、これによって日本の戦前は「人類普遍の原理」に反するものと否定され、その根幹をなす大日本帝国憲法、法令、詔勅をことごとく排除された。西村氏は主張する。【菅沼光弘著の「この国の不都合な真実」233頁参照】

自らの歴史を失う民族は滅びると言われる。日本を二度と再びアメリカ力の脅威

にはさせないというアメリカの強固な国家意思は日本民族滅亡も厭わないと考えたとしても不思議ではあるまい。

【あめりかノート】

「シンントン駐在編集特別委員・古森義久 2012.5.20.03.19 サンケイ

■日本国憲法起草の特異性

「私がチャールズ・ケーティスです」
 いかにも温厚そうな白髪の紳士が右手を差し伸べてきた光景が最近またしきりに思い出される。1981年4月、ニューヨークのウォール街の古い法律事務所だった。日本国憲法を起草したケーティス氏との顔あわせが、いまだ本側で憲法論議が高まるにつれ、思い起こされるのだ。

日本国憲法草案は1946（昭和20）年2月3日からの10日間に二十数人の米国人たちにより皇居に近い第一生命ビル内で書きあげられた。連合国軍総司令部（GHQ）民政局のスタッフたちだった。その実務責任者が民政局次長で陸軍大佐のケーティス氏だった。インタビュア当時の同氏はすでに75歳だったが、39歳のときに経験した日本国憲法作成の作業過程をよく覚えていた。

4時間近く、ケーティス氏が用意した資料をみながらその過程を率直に語る態度で語れば語るほど、私は日本国憲法づくりの異様に衝撃を受け続

けた。なにしろ手続きがあまりに大ざっぱであり、日本側への対処があまりに一方的な押しつけに徹していたからだ。しかも戦勝国が占領中の旧敵国に受け入れを強制した憲法なのだから当然ではあるが、それにしても粗雑な点が多かった。

ケーティス氏によれば、起草は都内の各大学図書館から他の諸国の憲法内容を集めることから始まり、後にマッカーサー・ノートと呼ばれる黄色の用紙に殴り書きされた天皇の地位や戦争の放棄など簡単な基本指針だけが手がかかりだった。

「私自身が書くことになった第9条の目的は日本を永久に非武装にしておくことでした。しかも上司からのノートでは戦争の放棄は『自国の安全保障のためでも』となっていました。この部分は私の一存で削りました。どの国も固有の自衛の権利は有しているからです」

ケーティス氏は後に日本側から「芦田修正案」が出されたときも、同氏の判断だけでOKを与えたという。この案は9条の第2項の冒頭に「前項の目的を達するため」という字句を挿入することで、固有の自衛権を認め、自衛隊保持の根拠を供した。

憲法草案のこうした重要な部分は上司のホイットニー 民政局長やマッカーサー元帥の承認を事後に得てはいるが、ケーティス氏の賛成だけでもすんだというのだった。50枚以上の記録として私の手元に残るケーティス氏のインタビュアはいま読むと、日本の憲法がいかに占領軍の命令で作られ、押しつけられたか、その特異性が改めて迫ってくる。当時の私は新聞社を一時離れ、カーネギー国際平和財団の上級研究員という立場でのインタビュアだったため、同氏の発言を新聞で報じることができなかった。

だが憲法が新たな脚光を浴びる現在、彼

の発言は少しでも多くの日本国民に知ってほしい憲法誕生の秘史部分だと思ふ。

当時の米国がこの憲法で求めたのは明らかに日本から防衛や軍事という主権の一部を奪い、半国家のままにおくことだった。だから日本側で戦後の国家体制に反対する勢力にも、この憲法は「半国家」という点で強い魅力となったのだろう。

野田佳彦首相が4月30日、オバマ大統領とともに重要性を再確認したという日米同盟も、まだまだ日本の憲法の特異性に縛られそうである。

世界中で問題化 中国人の飛行機内マナー

2012.04.08 産経ニュース

中国国家観光局の調べによると、11年に海外旅行をした中国人は延べ1000万人にのぼり、前年度比22%の大幅増となった。しかし、空前の旅行ブームに沸く一方、中国人旅行者の素養が疑われるような事件が多発している。航空機の乗客による客室乗務員や地上職員への暴力事件が相次いでいるのだ。

2月1日、グアム空港で離陸準備に入っていた上海行きの航空機内で、中国人夫妻が客室乗務員を口汚く罵り、現地の警察に連行された。この夫妻は、荷物棚にあった自分たちの手荷物、客室乗務員に移動されたのに逆上し、「私たちの荷物に触るな！」や「シヤラップ」と拙い英語で罵り続けたという。正常な業務ができないと判断した客室乗務員は、夫妻に降機するよう求めたが、人は「死んでも降りない！」と抵抗したため、警察に通報されてしまった。

各位から一言いただきました

かく言う私を「親米ポチ」と いいたい人はそう言えー！ H24-5-3 日本兵法研究会 家村和幸

今日、バトルシップという映画を観てきました。この映画は、エイリアンの侵略に対して日米海軍が共同してこれと闘う娯楽中の映画ですが、リムパック参加国海軍の中で海上自衛隊こそが米海軍が最も信頼している海軍だと言つメッセーシをこの映画の中でひしひしと感じ取りました。そして、そのことは私自身の30年の自衛官人生の中でも何度も米国軍人との会話を通じて感じてきたことです。

私は陸自出身であるが故にそのパートナーは米国陸軍や海兵隊でしたが、彼らは日米共同演習で「タイラント……No!」「リア……No!」「ジャパン……Good……」と語っていました。

かく言う私を「親米ポチ」といいたい人はそう言っておきませぬ。しかし、このことだけは言っておきたいと思えます。そして、そのことへの、納得できる反論があればお待ちします。

「支那は、停滞と後退しかない国です。アメリカは、遅々としながらもそれなりに学習し、進歩する国です。」

「支那は、他民族を無理やり抱きこんで、辺境を拡大してきた国です。米国は、北米大陸に自由に集まってくる他民族によって構成してきた国です。……いろいろな民族問題を抱えながらも……」さて、吾が祖国・日本は、このどちら

ら我々の友邦とし、協力し合うのが正しい選択でしょうか。それとも、そのどちらも捨てて、西太平洋のキューバになりますか？

もちろん、米国はその浅い歴史ゆえの未熟さから、何度も間違いを犯してまゝです。日本と同様にコミンテルンに乗っ取られる危機もありました。

反米を声高に主張する人に一言だけ言いたいのは、心あるアメリカ人の多くは心の中で過去を反省しています。しかし、「国家」としてそれは絶対に声に出せない、表に出せない、こいつこいつです。(もちろん、そうではない、おかしなアメリカ人も沢山います。)

それでも、国際社会の中では、嘘の歴史を押し付けられて60年以上もペコペコ頭を下げるだけの情けない政府と国もあれば、真実の歴史を腹の中にとどめて国際社会の中で責任ある地位を守るため、国家としての威厳を維持するたぐに突っ張っている国もあるというところなのです。

そこをこのところを理解しながら、米国人の心を察しながら、相手のプライドを傷つけずにうまく付き合っていく。「嘘」をつかない、正直で、太陽のごとく元気で、勤勉で……そうした魅力ある国家・民族として米国人の心をひきつける。そして、米国の潜在的な「力」を世界人類の平和のためにうまく発揮させる。

信頼される同盟国として、言うべきことははっきりと言い、お互いに納得しあいながら世界平和実現のために国家としての使命を果たす。これこそが日本民

族だけができる人類最高の芸当だ……。世界平和を「力」で実現できる国は、米国においてほかにありません。反米を唱えるならば、すくなくとも軍事力において米国を、いやその前に支那ぐらいいは超える！それができなければ、所詮何を言っても「負け犬の遠吠え」に過ぎない。これが、私の心情です。

私たち日本人は、日米の友好親善・日米の軍事協力の本質をここに見出し、人類の普遍の価値を米国が「力」で、日本が「心」でサポートできる唯一の国になるべきだと考えます。

まずは、占領下で押し付けられた憲法ぐらいいは、独立主権国家たる気概を持って自分で破棄し、自主的に制定すべきでしょう。他国に拉致された自国民や、不法占拠された領土を米国に引きつくりやなみつともないことをせずに自国の軍力で奪回すべきでしょう。それなくして叫ぶ「反米」は、本人が意識するかしないかは別にして、結果的に「親中」「媚中」そのものなのです。自らは自立せず、米国との縁を切ろうとする日本……最もそれを喜ぶ国はどこか……、これを考えればそのことは明らかでしょう。

吾が祖国の生存のために、米国を味方に引きつける、米国人が血を流しても「守る価値ある日本国」たらしめる……これが私の国防戦略です。

~~~~~  
「反米を唱えるならば、すくなくとも軍事力において米国を、いやその前に支那ぐらいいは超える！」

全く同感です。感銘します。日本はのち数年原爆を落とされました。そのことは忘れてはならない。と同時にいかに日本の利益のため米国を活用するかだと思えます。 増木

## 関越道バス事故に思う

### 「帰化」の簡素化絶対反対 H24-6-10 M情報 増木直美

毎日新聞 5月8日(火) 一時58分配信  
46人が死傷した関越道ツアーバス事故で疑問視されている、バス運転手の就労基準や指針。現行の1日最大「9時間運転」「670キロ走行」では過労運転を防げないとして、国土交通省が見直しを表明する一方、この基となる基準を作った厚生労働省の動きが見えない。運転手側は「過労を監督する厚労省がまず問題意識を持つべきだ」と批判し、バス会社側からも「運転手の労働基準がダブルスタンダードになるのは困る」との声が上がる……

違つ。これは絶対違つ。この運転手は中国人で、最近帰化したという。外国人参政権との兼ね合いで最近「帰化」が大変簡単になったと聞く。ここに問題がある。日本語もまともに話せない運転手。冗談ではない。

この中国人の運転手も事故を起こさないように心がけていたと思う。通常の「刃」の高速バスの運転手も事故を起こさないように心がけていると思う。両方とも心がけている。ところが、その「心」が全く違つのだ。

全部が全部とは言わないが、中国人の方は、「事故を起こすとクビになる」「自分の職がなくなる。だから安全運転に気を付ける。」「刃」の日本人運転手は「客を安全に、待っている人がいる目的地に送り届きたい」「だから安全に気を付ける。同じ「安全運転に気を付ける」でも、「自分」のためか「相手」のためか。正反対なのだ。ウンだと思つたら、一度上海でも

北京にでも行ってバスに乗ってみたいらしい。中国で、人とバスが接触したらまずバスの運転手は接触した場所に飛んでいって、傷がないか確認する。それから、接触したことを相手に怒鳴りまくる。

人が怪我しようがしまいがどうでもいい。良い悪いではない。そういう国なのだ。そういう価値観で何十年も車が走ってきた。その中で育ったきた人が日本に帰化していきなりバスの運転手。できる訳がない。日本に何十年も住んできた在日の帰化を少々甘くしようというなら、まだ半分くらい目をつぶってもいい。しかし、中国人やその他の価値観や文化の違う外国人の帰化を甘くするなど絶対あってはならないと思う。

最近、介護師等々外人を採用し始めた。これからこのような問題がどんどん出てくるような気がしてならない。

### 「日本海呼称問題で韓国を黙らせない」

拓殖大学教授 下條正男  
平成 24 年 5 月 7 日 嶋田尊治報告

国際社会を舞台に「日本海を東海に改めよ」と求める韓国の運動は、1992年に国連の地名標準化委員会が日本海の呼称について問題提起したことに始まります。以来官民挙げて

執拗な運動を展開してきました。今年1月バージニア州で使用する教科書に日本海と東海を併記するよう求めた提案が州の上院の委員会で8対7の僅差で否決されるという事件が起きました。4月23日〜27日に開かれた国際水路機関総会を目標に運動してきた韓国のもくろみは完全挫折しましたが、この問題がはらむ

大きな意味について認識すべき時です。

第1に、韓国この主張は、竹島、慰安婦などと同じく、完全に歪曲した歴史事実に基づいて行われているということです。今回紹介します下條正男先生の

「日本海呼称問題で韓国を黙らせる」(『正論』4月号掲載)に詳しく説明されていますように、なるほど『三国史記』(高句麗本紀)と『広開土王碑』に「東海」という記述があります。しかし、高句麗は朝鮮半島の西北から満州にかけて存在していたことから想像つきますように、「東海」はどうみても今の日本海を指すものではありません。今の黄海の一部を「東海」と表現していたわけですが、下條先生の言われるように、中国から見ると東にある海だからそういつていたということです。さらに渤海を東海とも呼んでいたということです。

こんな全くの歴史歪曲によって「東海呼称はキリスト誕生より古い」などというトンデモ論を声高に主張しているのが韓国なのですが、例によって日本政府のこれに対する断固たる反論がなされていないため、かなり国際的に広がってきているのが実情です。危うくバージニア州で論が採用されそうになったのがその典型例ですが、国際的な地名学者の間にも支持者が広がっているというのです。

またこの問題は、単に呼称問題にとどまらず、竹島ともからみ、全て日本帝国主義による侵略行為の一部であり、日本が償いを行うべきこの一環である、という主張と結びついていることです。政府に断固たる対応を強く迫るとともに、韓国の人々を含め世界の人々に、歴史の真実を訴えていかなければなりません。

### 職員の評価緩やか、評価標準も「甘い」

田沼新新聞35thのよ  
千葉市議会議員 田沼隆志

大阪維新の会「職員基本条例」に関連して、職員の人事評価や給与待遇見直しについて、質問。まだまだ、民間の感覚とかけ離れていると感じます。

大阪市の職員基本条例は、3段階の相對評価であり、全ての段階で評価される人数の割合が決まっています。対して千葉市は、ランクの、4しか人数の割合は決まっています。そのため1043人の職員のうち2以下の評価を受けた職員はたったの47人！約0.7%です。かつ、これには休職者やメンタル疾患者も含まれ、実態としては10数人だけ。実質、3段階評価なのです！4人に6人は、頑張っても頑張らなくても、ランク3の評価。これで緊張感ある職場と言えるでしょうか？これが行政のゆるま湯の体質の真因ではないでしょうか？(添付写真参照)

私は会社員時代、まさに大阪市のような厳しい評価の職場にいました。大変でしたが、低評価の恐れがあるからこそ、やる気生まれ、組織が非常に活性化していました。今回市長側は「今の評価制度は組織活性化が目的」と答弁しましたが、現状でそれができるとは到底思えません！厳しく指摘しました。

また、用務員・運転手・清掃員などの技能労務職員の給与水準は、民間比でありに高い！年収が600万円を超える清掃員や、850万円を超える運転手もいます。早急な見直しが必要です。仮にこれらの職員の給与水準を民間並みにした場合、なんと8億円の削減効果があるのです。

しかし、実際は組合に配慮し過ぎで、この数年全く改革が進んでいません。大阪の橋下市長は就任後すぐに見直しを表明しましたが、千葉の熊谷市長は就任して約3年経つものの、このテーマは全く進んでいません。このままでは市民の理解が得られるとは思えない、一刻も早い見直しを、と要望しました。

私は公務員をひとくくりに批判するのは好きではありません。しかし、ダメな部分はダメと言わなければなりません。今回の質問は、当局にとっても相当厳しいものだったと思います。これから、民間感覚と逸脱しない、頑張る職員がきちんと評価されて活気のある、そういう市役所にしていくよう、積極的に提案します。

### 保守派の祝日法案を糾す

平成 24 年 4 月 14 日  
主権回復を目指す会 児島謙嗣

4月28日、今年もまた「主権回復記念日国民集会」なるものが開催されるという。その場所が永田町の自民党本部であり、その主催者として自民党の議員、たちあがれ日本などが名を連ねている・・・これぞまさしく愛国保守陣営の限界を示して余りある現実だ。そう断言して差し支えない。

主権回復を目指す会では、昨年来、本件が孕(はら)む事態の深刻さを憂慮し、警鐘を打ち鳴らす意を込めて抗議活動を実施してきた。

4月28日の何が問題なのか？ いまいち分かりづらい面もあるが、端的に整理すると以下の通りである。  
・昭和27年(1952年)の4月28日、サンフランシスコ講和条約と同時

に日米安保条約が発効  
それによって、米国による事実上の占領政策が継続  
我が国は、外交・軍事における真の主権を回復できないまま今日に至る

たった3つの簡条書きを見ただけでも、賢明な読者は「4月28日を祝日化しよう」などという目論見の欺瞞が分かりになるであろう。4月28日に、我が国の実質的な主権は回復しなかった。いわば「屈辱の節目」だ。そのような日を、なぜ「主権回復記念日」などと詐称して祝日にしなければならぬのか？なぜ「お祝い」しなければならぬのか？どう考えても辻褄が合わない。

国家主権の喪失という現実を受け入れた上で、それについて国民一人一人が真剣に考える契機(きっかけ)を設けたいということであれば、その動機自体に我々は反対しない。しかし、それならば、日本版「国恥記念日」とでも称するのが日本人としての気概、日本民族としての矜持である。周知の通り、袁世凱政権下のシナ(中華民国)が21か条要求を受諾した5月9日を「記念」した呼び名に(ちなみだもの)であり、これこそが呼称として相応しい。

来たる4月28日(土)、我々は自民党本部前で「主権回復記念日国民集会」糾弾の抗議街宣を決定する。日章旗を掲げて愛国を訴える陣営同士が正面切って対峙する、まさに本物の「カウンター」だ。我々にとって、これは真の愛国を自負する者としての矜持を賭けた『墮日保守』との戦いである。

読者の各位におかれては、この「主権回復記念日」の問題を通じて、我々と保守派の主張の一体どちらに道理があるのか、「判断頂きたい」。

◆我が国の年間休日(祝日)を合わせて119日にも及び。今我が国は未曾有の大震災で打撃を受け、国家存亡の崖っぷちに立たされているのではないのか。「三叉」なる労働を嫌う悪しき民度の低落、こつしたなかで、これ以上祝日を増やしたらどうなるのか。怠け癖が染み付いた日本人の性根を破壊するだけだ。「保守派」よ、いい加減な無責任は止めよう。これ以上の休日は勤労意欲の崩壊を招くだけだ。主権回復運動を「祝日」という「人參」で語るのは止めよう！

【主権回復を目指す会設立趣旨】  
昭和27年4月28日、サンフランシスコ講和条約の発効をもって、我が国は大東亜戦における対外的な敗戦責任を処理した。  
昭和20年8月15日以降、日本は国際法を蹂躪する軍事占領下に置かれていたが、ここに真の終戦を迎え、独立国家としての主権を回復した。しかしながら、講和条約が発効すると同時に、日米安保条約も同時発効した。この安保条約の発効は今現在に至るまで、日本が軍事的な主権を喪失してきた現実を示している。つまり軍事の独立を喪失している点で、米軍の占領期間と講和条約の発効後は見事に連続している。

そして終戦60数年を経た現在の日本は、対米従属は言うまでもなく、シナ、朝鮮などの内政干渉にも屈服し続け今に至り、その惨憺たる現状は言うまでもない。

従って、我々の見解は今の日本を独立した主権国家と見なさないし、日米安保条約を放置したままでの主権国家などあり得ないとする。軍事的な主権を取り戻して、我が国が完全な主権国家を目指すことこそ当会の基本理念である。

「バカ女とは別れるー」  
どこかの痴話喧嘩ではありません。議会答弁です。6月13日、東京都議会で、土屋敬之議員の「憲法制定の欺瞞性、法

### 活動資金協力のお願

先ずは、平素より私どもの活動に力強いご支援を賜り心から御礼申し上げます。このレポートにもありますように、私どもは「国を破壊しよう」と思っている連中」と日々命がけて戦っています。ところが問題は活動資金。子供達に誇りある国を残すため今まで以上にがんばります。何卒資金のご協力を伏してお願ひ申し上げます。  
※この、M情報機関紙は新聞の形態をとっていただきますが、「活動の報告書」です。特に「購読料」は設定していません。カンパをよろしくお願ひいたします。

- カンパ金の主な使途は下記団体の活動の企画運営費です。  
・活動の資料等の発送費・道路、公園

### 原稿・同封資料の募集について

弊会『M情報活動報告』は、現在のところ毎月始めに全国約2000(目標5000)部発送しております。掲載ご希望の論文、情報等ございましたらごん表記事務所までお送りください。

- ◇前記口座、または同封の郵便振替にてご協力ください。  
・改憲祈念の会  
・竹島を奪還する会・関西  
・救う会大阪  
・靖国神社に眠る御霊に感謝する会  
・米国に原爆投下謝罪を求める会  
・大阪の公教育を考える会  
・スパイ防止法の制定を求める会  
・外国人参政権に反対する会・関西  
・日教組の違法行為を追及する市民の会

### 諸情報のメール配信について

弊『M情報』では、日々、全国各地の間から、または情報収集の専門家から情報が送られてきます。それをメールで転送します。内容はどこよりも詳しく多種多様。逆に言えば「量が多過ぎ」とお叱りを受ける

【(一)支援等の口座】  
郵便振替 0068008240547 MASUKI 情報デスク  
三塚 栄一 銀行 土庫 支店 024349 普通 増集 栄一